

フレンテとはスペイン語で  
「前向き」という意味です。

# Frente

vol.51  
2012.10

さあ、

いっぽ  
前へ。

特集

**女性の参画拡大に向けて**

♪ポジティブ・アクションの推進♪

男女共同参画フォーラム  
みえの男女2012

夏の講座・イベントレポート

地域リーダー養成講座

フレンテみえ特別講座

三重そうぶんシネマスクエア2012

ほか

秋～冬の

フレンテみえ事業紹介

SPECIAL interviews

ぱく けいしゅく

**朴 恵淑**

(三重大学 理事・副学長／環境地理学者)

**永井 愛**

(劇作家・演出家／二兎社主宰)

男女共同参画フォーラム2012

# みえの男女

平成24年11月10日(土)  
10:00~16:00

## 女性の 参画拡大に 向けて

ポジティブ  
アクション  
の推進

今年もいよいよ“フォーラム”の季節がやってまいりました！

この「男女共同参画フォーラム」は、皆がいきいきと暮らせる男女共同参画社会づくりのために、県内各地の人々が一堂に会し、さまざまなテーマで考え方交流する場として毎年開催している、フレンテみえ今年度1年の集大成事業です。

今年は、あらゆる分野への女性の参画を促進し、男女間の格差を解消するための「ポジティブ・アクション」の導入について、なぜそれが必要なのか、具体的にどう取り組むのかを、対談やワークショップを通して考えます。皆さまのご参加を心よりお待ちしています！

### 対談

国、県の現状と未来予測から、女性の参画拡大がなぜ必要なのか、  
どう取り組んでいけばよいのかを具体的に提起する、“目からウロコ”の豪華対談！

ベストセラー  
「デフレの正体」著者

藻谷 浩介さん

株式会社日本総合研究所  
調査部 主席研究員



呉本 紀子さん

パナソニック株式会社  
エコソリューションズ社  
ダイバーシティ推進室 主事

文科省委託事業  
推進委員

1964年、山口県生まれ。東京大学法学部私法コース卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行。米国コロンビア大学ビジネススクール留学（MBA取得）の後、日本政策投資銀行地域企画部・地域振興部ほか要職を多数重ね、現職。専門はまちづくり、観光振興、産業振興、人口成熟問題。平成合併前3200市町村の99.9%、海外59カ国を概ね私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。各種統計結果を詳細に解析した事実認識と取組の実例を交え、まちづくりのあり方などを提言している。男女共同参画やダイバーシティに関しては造詣が深く、全国から講演依頼が殺到している。著書に「藻谷浩介さん、経済成長がないと僕たちは幸せになれないのでしょうか？」（2012年／学芸出版社、共著）、「デフレの正体」（2010年／角川新書ワンテーマ21）、「実測！ニッポンの地域力」（2007年／日本経済新聞出版社）などがある。非常勤：（株）日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問、NPO法人 地域経営支援ネットワーク理事長

### パネル展

三重県内市町の男女共同参画の取組状況展示や、ジェンダー統計パネル等さまざまな展示を行います。

#### ★実効性ある女性参政権へ、過去・現在・未来

【三重の女性史研究会】

#### ★男女共同参画を津津うらうらに――【グループ津津うらうら】

#### ★三重大学における男女共同参画の推進

【三重大学 男女共同参画推進室】

短大卒業後、パナソニック株式会社（旧松下電工（株））に入社。1995年・1999年に出産・育児休業を取得し、2002年社内制度の変更により、職掌変更（一般職相当⇒総合職相当）。2006年人材・能力開発センターへ異動、人材育成研修システムの開発を担当。2004年同社女性躍進推進室（ダイバーシティ推進室の前身）立ち上げ当初から地区女性躍進推進委員会メンバー・事務局を担当し、2009年10月より現職。すべての社員が多様性（個性・特長）を發揮してイキイキ活躍するための社内風土づくりに取組んでいる。社外委員：門真市男女共同参画審議会委員、文部科学省委託事業「実証的・社会科学研究推進事業」「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」研究プロジェクトチーム・推進委員

コーディネーター

水落 正明さん 三重大学人文学部 法律経済学科 准教授

1972年生まれ。東北大大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。お茶の水女子大学研究員を経て2006年より現職。専門は労働経済学、家族の経済学。主な研究テーマは結婚、出生、男女の家事・育児参加、女性の就業など。著書には共著として「結婚の壁—非婚・晚婚の構造」（2010年、勁草書房）、「対等な夫婦は幸せか」（2007年、勁草書房）などがある。三重県男女共同参画センター運営協議会委員。



### ホールイベント（多目的ホール）

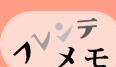
13:00～ オープニング

13:15～ 三重県知事あいさつ

「男女がいきいきと働いている企業」三重県知事表彰式

14:00～ 対談「女性の参画拡大に向けて

～ポジティブ・アクションの推進～



「ポジティブ・アクション」とは？

# 全国から注目のフレンテ集大成イベント、いよいよ開幕！

## ワークショップ

今回のフォーラムでは、4つのワークショップを開催予定です。「フレンテみえ」では、「防災」「キャリアプランニング」に関する2つのワークショップを主催します。ぜひご参加ください!

### ① 「防災と男女共同参画～見直そう！男女共同参画の視点で身近な防災マニュアル～」

災害時などの取組指針であるマニュアルに多様な視点が入っていますか？自治会や企業、地域にある防災マニュアルを男女共同参画の視点で見直し、盛り込むべき事柄を考えます。

講師：福田 紀子さん（東日本大震災女性支援ネットワーク プロジェクトマネージャー） 主催：フレンテみえ

### ② 「シューカツに負けないココロを作るキャリアプランニング」

キャリアプランとは、自分の夢や未来を実現するために、今どのように行動するのかを決めることです。未来の自分のために、今の自分をよく知り、自分で選択する力を身につけて、これからの自分を支えるココロの基礎をつくりましょう。

主催：フレンテみえ

### ③ 「男女が働きやすい職場づくり～県内企業の取組を通じて～」

ポジティブ・アクション、ワーク・ライフ・バランスとは何か、またそれらはなぜ必要とされているのか。

男女が働きやすい職場づくりを目指して、実際にポジティブ・アクションとワーク・ライフ・バランスの取組を実践している県内企業の人事・労務担当者等が事例発表や意見交換を行い、企業・従業員にとってのメリットや問題点などを明らかにします。

コーディネーター：江成 幸さん（三重大大学人文学部 准教授） 主催：三重県雇用経済部雇用対策課

### ④ 「女性を政策・意思決定の場へ 第3弾～参画のノウハウ～」

202030に向けて、私たちが具体的にどう行動していくのか、考え方行動しましょう。一昨年・昨年に続いての開催です。

主催：男女共同参画みえネット



#### 男女共同参画みえネットの取組について

男女共同参画みえネットは、「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として三重県や各自治体と協働で「意思決定の場への女性の参画」促進応援プランに取り組んでいます。

現在は、「意思決定の場への女性の参画」促進応援プランに賛同した市町の中から選定した5市（四日市・亀山・伊勢・志摩・伊賀）と、それぞれの市が持つ意思決定の場への女性の参画の課題（自治会への参画、市民への啓発等）に向けて、県や市が育成した人財を中心とした関係者懇談会を終え、具体的に事業を進めています。

「以前より女性の社会進出は進んでいるし、すでに男女の格差はない」という印象を持っている方は少なくないかもしれません。しかし、実際はどうでしょうか。平成21年度の意識調査（三重県）では、「社会全体で男女は平等だと思う」と回答した人は16.4%で「男性の方が優遇されている」と回答した人が58.8%です。また、各国の男女間格差を数値化したランキングでは、日本の女性の地位（GGI：ジェンダー・ギャップ指数）は135ヶ国中98番目で、男女格差の大きな国であることが分かります。

このような実態を踏まえて「フレンテみえ」では、平成24年度、女性の参画拡大・男女間の格差是正を目標に「ポジティブ・アクション（202030）」の推進をテーマに事業に取組んできました。

フォーラムでは、様々な手法と切り口で「ポジティブ・アクション」について考え合います。男女の人権と多様性が尊重され活力に満ちた男女共同参画社会を創造していくのは私たちです。フォーラムでお会いしましょう。

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」所長 柏木はるみ

### フレンテ・マルシェ

県内各地の女性起業家によるフレンテ・マルシェを開催します。農産物や加工品、お菓子などたくさんの魅力あるブースが並ぶ、この日だけのスペシャルなマルシェです。どうぞたっぷりお買い物もお楽しみください！

### 相談ブース

三重労働局などの相談ブースを開設します。それぞれ専門の相談員が「働くこと」等に関する個別相談をお受けします。また、「女性の1歩を応援！」ブースでは、パソコンを使った適職診断を体験できます。

参加お申込・詳細は  
フレンテみえまで！

ホールイベントはフレンテみえHPからお申込みいただけます  
<http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

男女労働者間に格差を解消し女性の能力のさらなる發揮を図るために進める積極的な取組のこと。

女性の管理職への登用拡大など、数値目標を掲げて取り組む方式もある。（フレンテみえHP内「参画ゼミ」参照）

October 2012 VOL.51



外国人女性として初めて日本の国立大学の理事・

副学長に就任した三重大学の朴先生にお話をうかがいました。

—昨年の春、「外国人女性として初めての大学理事・副学長」に就任されましたか？ 戸惑いなどはありましたか？

全くありませんでした。国公立大学の女性理事は全国で数人はいるそうですが外国人は初めてです。ただ、大学が「女性を理事に」と思って入れた人が偶然外国人だったということ。外国人、女性だからといって躊躇して断るつもりもなかったですね。

—三重大学における男女共同参画の現状はいかがでしょう？

人文学部や教育学部の女性研究者はそれなりに多いです。ただ、工学部の女性研究者はまだ4人程度で、女性は全体の18%です。

私の今後のスタンスとして、男女が50:50のバランスになるまでは、積極的に女性を増やしたいと思っています。優秀で能力ある人なら、男女関係なく採用するということです。

—ご出身の韓国と比較すると、日本の男女がおかれている現状についてはどのように感じられますか？

韓国では最近は家事を男女半分ずつ分担している場合が多いですよ。この10年～20年で経済が豊かになり、「母」が意見を言い始めました。日本の母は「母」としての役割を引き受け過ぎています。家族でもっと家事を分担すればいい。

また、日本の女性は自分の意見をあまり言わないと感じます。衝突を避けるとも思えます。「いい人」になろうとする。「いい人」と「21世紀の現代社会が求める人」とは違います。人間同士、真剣に考えるなら対立があつて当然なんです。私は、「女」「男」を離れて、「人間として素晴らしい」にならないのだろう、と思っています。

ただ、私自身のキャリアでは男社会で苦労したという経験はありません。「鈍感力」を持っているのかもしれませんね。夫婦の子育てについては「子どもを作るのは二人だから、育てるのもシェアしないとおかしい」と言いたいです。

—韓国から日本に留学された後、アメリカに渡って研究を進めるなか、結婚・出産・子育ても経験されたそうですね。

当時は「地球温暖化」と言われ始め、環境分野が盛り上がっ

M祭 2012 8/5(日) 三重県総合文化センター

Report

M祭！は三重県総合文化センターの夏休み恒例「参加し、体験し、楽しく学べる」子どものためのイベントです。今年のフレンチみえは、三重大学の女性研究者や学生とともに「テクノガールのカガク工房」を開催しました。各回定員を上回る大盛況で、合計264人の子どもたちが参加してくれました。

前半は、レモンやバナナなどを使ってくだもの電池をつくり、電子オルゴールを鳴らしてみました。ひとりではかすかな音でも、みんなの電池をつないでみると大きな音になり、子どもたちも「聞こえる！聞こえる！」「大きくなつた！」と大喜びでした。後半は、日本庭園でいろいろな「色」を集めて、画用紙に貼っていました。葉っぱや草や石、なかにはセミの抜け殻を拾ってくる子どもも！完成した自分だけの色を集めた画用紙はひとりひとり違い、子どもたちに「ものの見方や感じ方はみんな違う」ということや科学の楽しさを伝えられたかなあと思います。



てきた頃でした。研究予算も増えて3年だった滞在予定が延び、夫は先に日本へ帰国しました。当時娘は2歳で、数年後、日本に帰国したら、娘は父親の顔がわからない状態でした（笑）。

—仕事と子育ての両立について、大変だと思われたことはありましたか？

95年に三重へ来た頃は特に大変でした。ベビーシッターが高いんです。収入が月に約30万円なのに、シッターダイアが1日8時間で1万6千円もかかる。大学や国の補助もありません。何のために働いているのかわからなくなりますね。キャリアを継続しながらの子育ては大変です。でも私は「仕事が生きがい、子育ても生きがい。両方とも“50:50”なんです。いずれ子どもは育つ！やるしかない！」という気持ちで頑張りました。人は崖っぷちでは強いんですよ。

娘の成人を2年早い18歳と考え、娘にはその2年が「ママの大事なキャリアアップの時間」と伝えました。私には、「人生のターニングポイントで自分が判断し『大切と思うもの』を選んでいく」という信条があり、娘にも伝えています。その時々で子育てを選ぶ人、仕事を選ぶ人、それぞれいるでしょう。だから、全てを完璧に、ではなく、優先順位をつけていく。決めるのは自分ですから、その結果に自分が納得しなければいけないと思います。

—日本のジェンダー、男女共同参画のこれからについて、どのようにお考えですか？

次の世代へのバトンタッチが大切です。年配の方の知恵と若者の情熱を融合させることができ、今後ジェンダーやあらゆる分野で重要なのではないでしょうか。

—最後に、女性、特に若い世代の皆さんへ向けて、メッセージをお願いします。

常に勉強。なにか「武器」を手に入れることが大事です。それも常にプロフェッショナルな気持ちで臨むこと。アマチュアではダメです。続けていれば必ずどこかでチャンスをつかめます。死ぬまで勉強ですよ。自分を高めることには終わりはないんです。ぜひ、広い視野をもってチャレンジしてください。



とてもパワフルで素敵なお方でした。親しみやすい笑顔の中に、強く自立した女性のいきいきとした姿を感じられました。

ぱく けいしづ  
朴 恵淑 PARK, Hye-Sook

韓国ソウル出身。2000年より三重大学人文学部教授。2011年4月1日より、三重大学の国際および環境の担当理事・副学長となり、日本の国立大学において初めての外国人副学長となった。今春より男女共同参画も担当。

専門は環境地理学・環境教育・NGO論。

# 永井 愛

11/27に新作「こんばんは、父さん」で

再来県の二兎社主宰 永井 愛さんにお話をうかがいました。

SPECIAL interviews

★スペシャル・インタビュー★

その2

—これまで多くの印象的な“女性像”を作品で提示してこられた永井さんですが、今回の新作「こんばんは、父さん」では、初めて男性登場人物だけの作品に挑戦されるそうですね。

前に『片づけたい女たち』という女三人芝居を書いたのですが、これは、それまで無自覚で、「人生とは何か」なんて何も考えずにきた三人が、ふとした出来事をきっかけに、はからずも自分のこれまでの生き方を検証するという作品です。自分にとって面白いテーマだったので、その男性版を書きたいと思いました。それから震災が起り、「原発事故をもたらした“日本というシステム”を形作ってきた男たち」を、より意識するようになりました。「経済最優先」の価値観に支配された男社会で、その歯車として機能してきた男たち3人の芝居にしたらと面白いと思い、方向性が決まったんです。

—世の男性には図らずとも抱えてしまう「使命」や「役割」のようなものがあると思うのですが、永井さんはそういう“男の鎧”と言われるようなものについて、どのように感じていらっしゃいますか？

かつてはGDPの数字を良くする=経済的豊かさ=幸せという尺度があり、特に男性は、競争社会の中で勝つ者が優れているという考えにがんじがらめにされてきた。この価値観って一度持ってしまうと、なかなか捨てられないんですね。だって、人命に比べて優先させるものなんて何もないはずなのに、今でも「国際競争力が落ちるから脱原発には反対」なんて言っているわけでしょう。これが全部男ってわけじゃないけど、男性優位の価値観と「国際競争力」が結びついて、男性エリートを作り上げてきたのは確かだと思う。そうしたことの全てが、震災や原発でゆさぶりを受け、はからずも見直しを迫られています。

原発の是非を問うアンケートを見ても、「原発やめよう」は女の方が高い。これは女性の理性が導き出した結論なんですよ。

でも、意思決定機関にいるのは男性ばかり。先進国で女性にこれだけ発言権がないのも珍しい。これは日本社会の特殊性だと思います。



永井 愛 Ai Nagai

劇作家・演出家。二兎社主宰。

主な作品に「シングルマザーズ」「かたりの椅子」「歌わせたい男たち」「新・明暗」「こんにちは、母さん」「萩家の三姉妹」「ら抜きの殺意」など。紀伊国屋演劇賞個人賞、鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、読売文学賞などを受賞。

★二兎社「こんばんは、父さん」三重公演の前売チケットは予定枚数を終了いたしました。詳細は三重県文化会館チケットカウンター(059-233-1122)まで

## 本当の意味での男女平等で、男も女も魅力的に。

女性にチャンスを与えることで、男性も豊かになり、本来の知性を發揮することができると思うのですが。本当の意味で男女平等になれば、男も女ももっと魅力的になれるのではないかでしょうか。

被災、原発の不条理という悲惨な体験は、日本のエネルギー問題、経済問題を考え直すだけでなく、男女問題を考え直す上でもいいきっかけになったらと思います。

—永井さんご自身も、現在の「劇作家・演出家」としての道を進むにあたって女性だからこそ感じた「生きにくさ」のようなものはありましたか。また、そんな時は、どのように対処されましたか？

私が劇作を始めた1980年代前半は、「女の書いたものだから甘い」という言い方で批評されることがよくあった。男の役者で「女に演出されるのはいやだ」と言って断った人もいた。そういうことが、さほど不思議でない意見として通用していたんですね。

そういう男の人に対しては一つ一つ、論理で対応していくのが一番だと思います。こちらが希望することの理由をはっきり伝え、相手の意見も聞く。そうすることで、よりよい方向、真理へと向かっていくことをアピールしました。でも、どうすれば相手に伝わるかは、本当に試行錯誤でした。ただ言えばいいわけではない。使う言葉、伝え方が大事なんです。男性を演出するという経験の中で、論理的にものを言って相手を説得する術が鍛えられたと思います。

—逆に、女性だからこそ「得したこと」や女性であることの「生きやすさ」のようなものを感じることはありますか？

私が大石静と二人で二兎社を始めると、すぐに女性誌から取材が来たんですよ。あの頃は「女の時代」と言われて、如月小春さん、木野花さん、渡辺えり子（現・渡辺えり）さんの三人が注目されていました。二兎社は「その他」の部類で、おこぼれで取材してもらえたんですけど。女だから珍しいってことで取り上げられやすかったんですね。

女性の利点って、腕力が弱い分、いきなり殴りあいにならないように、平和的に物事を解決していくクセがつきやすいことですかね。二兎社を設立した頃はまだ「男のパワー」が指導力のように思われていたけれど、女だということで「ソフトパワー」を最初から認めさせたのはよかったです。

永井 愛さんインタビューの全文は  
フレンテみえホームページに掲載しています。

どうぞご覧ください！

<http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>  
「フレンテみえ」で検索！

**Report**

地域リーダー  
養成講座

## いま、あなたは何をする？

～防災から考える“新しいコミュニティ”づくり～

7/22(土)～9/8(土)

連続講座(4回)

先の大震災以降、男女共同参画の視点での防災対策や、普段からの多様な視点でのコミュニティづくりが求められています。そこで、「防災」を切り口に、これからのコミュニティのあり方について考える講座を開催しました。

初回には、(特活) NPO 政策研究所 専務理事の相川康子さんから、「防災の取組を男性や専門職の仕事…というよう特別なものにしないこと。また、各地域の特色を活かした減災対策が必要。それには、普段から妊産婦、子ども、一人親家庭、要介護者…など地域に住む様々な人の声を反映することが大切。また、自治会だけでなく助産師会等の専門家団体など、様々な主体との連携で、いくつものセイフティーネットを作ることも必要だ」とのお話がありました。

第2回目以降では、美し国おこし・三重さきもり塾 副塾長の浅野聰さんから、三重県と三重大学との連携による防災人材プロジェクトの紹介や実践事例、また、ドーンセンター統括ディレクターの仁科あゆ美さんから被災地の現状についてお話をありました。「地域を守らねばという強い責任感から押しつぶされそうになった」と話す被災地の男性の事例から、固定的性別役割分担意識に囚われない意識の必要性が話されました。

講座には、自治会や自主防災組織、子育て支援活動者など、様々な立場の方が参加。グループワークでは「自治会に若者の参加が少ない」「外国人や要介護者など住民情報を把握できていない中、災害時の対応が課題」といった声が挙げられました。それらに対し、「地域活動に参加のない当事者の声を聞く場を設ける」「自治会等の役員に男女半数を入れた新たな体制づくり」や「多言語での防災グッズの作成」等の解決案が。参加者からは「地域の課題解決の糸口が見つかって」「今後、地域で多様な視点での防災講座をやりたい」という感想をいただきました。

**Report**

フレンテみえ  
特別講座

## これからの企業&ビジネスパーソンへ

～未来を生き抜くライフスキル × マネジメント・ノウハウ～

8/24(金)

多目的ホール

—「ワーク・ライフ・バランス」の実践例満載！ 夢の対談も！



サイボウズ株式会社代表取締役社長の青野慶久さんを講師に迎えて開催した特別講座。リアル・イクメンとしての自身の育児体験から同社で実践している様々な取組（最大6年の育児休暇や在宅勤務、「感動課」設立や部活動の推奨など多種多様！）まで、ワーク・ライフ・バランスへの取組が働く人（多様な価値観の取得など）、企業（生産性向上や人財確保など）双方にとっていかにメリットがあるのか、キレイゴトだけではない現実的な側面も含めたお話を、ユーモアを交えながらたっぷり90分間うかがいました。

そして後半は、急遽決定した豪華企画。多気町の万協製薬株式会社代表取締役社長、松浦信男さんに登壇いただき、青野さんとの対談を開催しました。このお2人、お互いの「会いたい！」コールがついに実現した初対面！会場からの質問を交えながら「働くということ」や「人財発掘・育成について」などなど、もちろん経営者としての視点を含めて1時間超にわたって様々なお話をいただきました。最後に、「(ITの進化で)今、ついに女性が活躍するためのインフラが整った。女性を含め多様な人財を活かせる会社が伸びるのは当然。自信をもって進めてほしい（青野さん）」「子どもを産み育てるという人として尊い行為に女性だけでなく男性も社会も一緒に参加し、21世紀を豊かな社会にするという大人の責任を果たしていきましょう（松浦さん）」と、お2人から力強いメッセージをいただきました。



こちらもどうぞ!  
**PickUp!**

～これからの人生を“生きる”ために～

12月8日(土)

## 定年＊男の「スタートティング・ノート」

フレンテみえ  
男性講座

仕事を中心でがむしゃらにがんばってきた男性のみなさん！定年を機に「男の鎧」を脱いで新しい人生を“生き”ませんか？

講師はシニア産業カウンセラーでキャリア・コンサルタントの吉岡俊介さん。楽しく充実した人生を歩むためのヒントをプレゼントします！

**日時** 2012年12月8日(土) 13:00～16:30 **会場** 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」3階 セミナー室C **料金** 無料

**講師** 吉岡俊介さん（シニア産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント）

**申込** 事前申込制：電話・FAX・郵送・Eメール・ホームページ・窓口 **託児** あり〔1歳6ヶ月～小学3年生・託児料500円／1人・申込締切11/24(土)〕

いふみモ

セクシュアル・ハラスメントの労災認定とは？

9/17 月祝

多目的ホール

三重そふしシネマスクエア2012

「311：ここに生きる -In The Moment-」シネマトークリポート

我謝 京子 監督

Report

作品は、東日本大震災後を生きる女性たちのドキュメンタリー。上映前に1分間の黙祷をおこないました。

## 「ぜひ自分の人生と対話しながらこの映画を見てください」 我謝京子

3月11日の大震災の日、私は前作「母の道、娘の選択」上映のため沖縄県にいました。そこで、テレビで災害の映像を見て、日本に残り取材をするか迷いましたが、NYに残した娘のことや仕事のこともあります。帰国しました。

「自分に何ができるのだろう」というおもいが日に膨らむ中、日本のあるテレビ局の女性プロデューサーからラブレターのようなメールをもらいました。「女性の視点での復興映画を作ってほしい」と。

連絡をもらって1週間も経たない内に、東北に行きました。前作「母の道、娘の選択」をお見せし、私自身がNYに渡ったことや『911』に被災したことなどを自分をさらけだした上で、女性たちと座談会で語り合いました。その中で、「今の状況や一日の中でも変わっていく気持ちを記録に残してほしい」という女性たちの強いおもいを感じたのです。その後、現地を歩く中で知り合った50人以上の女性たちの声を聞きました。すばらしい女性たちとの出会いが続き、この映画が完成しました。

この映画には、ナレーションがありません。ナレーションがない方が観客と映画に登場してくださった方々が直接対話をすることができると思ったからです。実際にいろいろな方のお話を聴き、本当に力強い方が多く、やはり彼女たち、彼らの声だけでつなげていきたかったのです。

今回の作品の取材で、また、『911』の取材でも聞こえてきた声があります。

それは「過去はどうやっても戻れない。今できることは『今この瞬間をどう生きるのか』」ということです。皆さんがあなたに言わされた『今この時を大切に生きる』ということをタイトルに、また、英語で「In The Moment」としました。この映画を材料に私たちひとりひとりが復興のため、支援のために自分の得意分野で何ができるかを考えいただけたら、幸いです。

今、続編の取材をしており5年、10年後の姿を追っていきたいと考えています。ぜひ今回の作品と見比べてください。

## 女性に対する暴力防止セミナー

### 「気づいてください～あなたのそばの見えないDV～」

伊賀市開催

身近にあるDVに気づくために、市民の皆さんによる朗読劇や講演会を通じて、DVの実態、DVの基礎知識、加害者・被害者の心理や子どもへの影響、私たちができることなどについて学びます。

日時 11月18日(日)13:30~16:00

会場 伊賀市ゆめぱりすセンター2階 会議室

料金 無料(定員100名程度)※申込不要 記入あり〔要申込/未就学児・定員10名・申込締切11/9(金)〕

《講演会》『なぜ男は暴力を選ぶのか～DV加害者の実像と対策』 講師／沼崎一郎さん(東北大学大学院文学研究科教授)

《朗読劇》『ひまわり～DVをのりこえて』(公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会 企画・制作作品)

演者／伊賀市市民グループ「ポッポ会」、伊賀市子育てインストラクター「スマイル母(ママ)」

《報告》『伊賀市のDVに関する報告』 報告者／津田頤克さん(伊賀市健康福祉部こども家庭課こども家庭係)

## 母子家庭等の女性のための

### 就職準備セミナー in 四日市市

四日市開催

履歴書の書き方や面接に向けた心構え、さらには模擬面接…など、就職活動に向けたステップとなるセミナーを開催します。就職、労働についての役立つ情報や、無料メイクアップレッスン、参加者同士の楽しい交流会もあります。小学生以上のお子様が楽しめる子どもプログラムも同時開催！あなたらしい自立に向けて、一緒に踏み出しましょう！

日時 12月1日(土)13:00~16:00

会場 四日市市男女共同参画センター「はもりあ四日市」

料金 無料(定員30名程度)※11/20申込締切

記入あり〔要申込/未就学児・申込締切11/20(火)〕

セクシュアル・ハラスメントが原因でうつ病や急性ストレス反応などの精神障害を発病した場合も、労災保険の対象になります。詳しくは、最寄の労働局または労働基準監督署へご相談ください。

# 「女性社員」本気でを活用するためのチェックリスト！

(C) 女性と仕事研究所

1. 上司・管理職は女性も男性も同じように育成するというスタンスで仕事を与えていますか？
2. 女性を一人前の社員と見なさず、甘やかしたり、遠慮から過保護にしていませんか？
3. 女性を会議、打合せ等から除くなど、女性に不公平感や疎外感を感じさせるようなことはありませんか？
4. 女性のことは女性に任せるという考え方で、女性を指揮するのはもっぱら女性の管理職が担当していませんか？
5. 中間管理職等に対して、女性の育成についての研修を行っていますか？
6. 従来男性のみが参加していた研修に、女性がはじめて参加する場合には、何人か女性をまとめて参加させるなど、参加しやすい環境を整えるようにしていますか？
7. 女性の少なかった職務分野に女性を配置する場合、その職務を遂行するのに必要なことがらを研修できるような準備の過程を設けていますか？

Yes?  
No?

## 新たな時代を勝ち抜くためには「女性社員の戦力化」が必要不可欠？！

少子高齢化、労働力人口減少など様々な社会変化の時代を迎え、今まで男性中心であった企業の雇用慣行も変わらざるを得なくなっています。企業の中核で活躍する女性も珍しくなくなり、女性の職域は拡大しています。

経営戦略的にも、女性管理職比率が過去5年間に増加した企業ほど経常利益が増加する傾向がみられており、女性の参画拡大へ取組むことは、企業が新たな時代を勝ち抜くための「鍵」になると言えるのです。

女性の活躍促進(ポジティブ・アクション)が企業経営に与える効果について  
フレンテHP  
「参画ゼミ」に掲載中!



## フレンテみえ って、なんに？

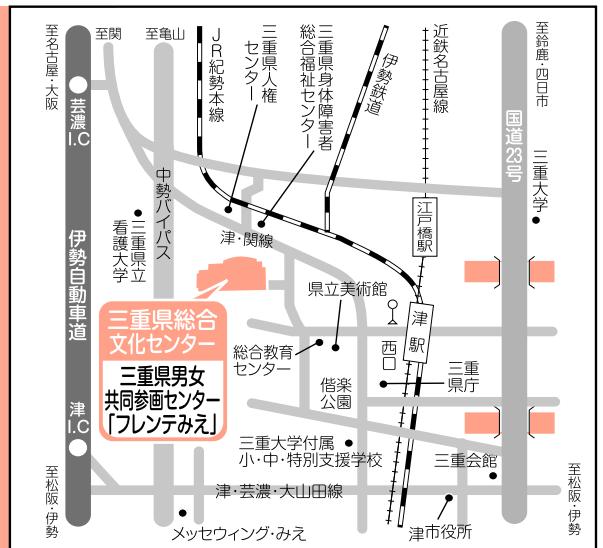
三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5つの柱」で、様々な事業を展開しています。  
ぜひ皆さん、お気軽に立ち寄りください！

~詳しい情報はホームページまで~

フレンテみえ

で 検索

三重県男女共同参画センターまでのルート案内



生き方・家族・人間関係・からだ・離婚・職場 などなど…  
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

**女性のための電話相談** 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル **059-233-1133**

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00~12:00		●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00~15:30		●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00~19:00	*	—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり（翌平日が休館日）

フレンテみえ相談室のご案内  
(切り取ってご利用ください)

休館日

毎週月曜日  
年末年始  
(12月29日から  
1月3日まで)

交通

■バス／津駅西口1番のりばから約5分  
■徒歩／津駅西口から約25分  
■自家用車／伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分  
※駐車場は1400台（無料）できるだけ公共交通機関をご利用ください。

発行

[年4回発行／次回12月発行予定]

MIE CENTER FOR THE ARTS  
**三重県総合文化センター**

三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地

TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135

URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

E-mail : [frente@center-mie.or.jp](mailto:frente@center-mie.or.jp)